

平成 22 年度 大和市障害者自立支援協議会 第 3 回定例会 議事録

場 所： 大和市障害者自立支援センター 交流空間
日 時： 平成 22 年 12 月 13 日 17：00 ～ 18：35
出席者： 下記参照

出 席 者：定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

宇山秀一（県央療育センター）、成澤一之（ワークステーション・菜の花）、
村元良悦（大和市社会福祉協議会）、山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、
鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会）、春日恵美子（大和市手をつなぐ育成会）、
田中貞代（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））、
阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、
藪内昇（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、佐藤倫孝（自立支援センター）、
風間康子（サポートセンター・花音）、目黒裕（松風園）、
菊間博子（大和保健福祉事務所保健予防課）、菊地原広憲（大和市健康福祉部障がい福祉課）
高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※

事務局

和賀礼奈、松川亜希子（自立支援センター）、石射千夏（サポートセンター・花音）、
山田兼右、寺崎由布季（松風園）、田邊努、星野宗吾（福田の里）、
柏木裕幸、佐伯隆宏、笹岡整、民實健二（大和市健康福祉部障がい福祉課）

欠 席 者： 佐野文彦（あゆみの家）、関水貴浩（福田の里）、五十嵐衛（サポートセンター・花音）、
大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※、
田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※ 注）※オブザーバー出席者

資 料： 1. 相談支援事業実績報告
2. 相談支援事業 データベースコード表
3. 専門部会活動報告（児童・就労・精神・身体障害）
4. 就労部会 職が開拓用パンフレット
5. 身体障害部会 通学に関する地域懇談会 案内
6. 自立支援協議会全体会 開催案内
7. 障がい者週間報告書

内 容：

〔 議 題 〕

1. 相談支援事業 活動報告

(1) 実績報告

- ・ 資料をもとに事務局から説明。
- ・ 前回の定例会と同じ形式の資料となっている。大きな変化は特になく、例年通り順調に相談を受け、対応している。

(2) 支援実績についての集計方法の改善について

- ・ 前回、相談内容の報告の仕方を、もう少し分析できるような内容にしたらどうかとご意見を頂いたため、統計の出し方等について話し合ってきた。定例会で提出しているグラフやデータは受けた相談をデータベース化してまとめたものである。もう一度入力する情報を検討し直し、どのようにデータベースを取っていくのかを話し合った。
- ・ 新しい分類や内容について、資料をもとに説明。今回新たに追加・変更した箇所に関しては赤字で表記してある。
- ・ 受けた相談をそれぞれ細かい内容に分類して入力できるようにした。12月からやり始めたばかりなので、まだまだ改良の余地があると思われるが、次回、2月の定例会で新しい形での実績を報告できると思う。

【質疑応答】

- ・ サービス利用相談となっているが、どういう意味なのか。(委員)
- ・ サービス利用が細分化されると相談は多くても実績が上がっていないなど状況が分かる。データを取りながら、状況を把握し、分析できるかどうか確認する。(事務局)
- ・ 誰からの相談かを入力できる部分はあるのか。(委員)
- ・ 相談対象者の名前を入れる欄と実際に相談に来所された方(家族等)を入れる欄はあるが、データベース化するところには至っていない。(事務局)
- ・ 「本人」「母」等の記入をする箇所はあるが、コード化されていない。コード化することは難しいことではなく、必要によって変更は可能。(事務局)
- ・ 凄く見やすくなって分かりやすい。就労支援と就労移行支援等、内容が重なる部分は出てくると思うが、不都合が出たら変えていけばよいと思う。(委員)
- ・ 子どもが対象の相談にはどんな相談があるのか。相談内容としてまとまっているとは思いますが、子どもの相談内容が具体的に分かればありがたい。データベース上でも良いし、会議でも良いので教えて欲しい。(委員)
- ・ このデータベースを利用することにより、就学前なのか小学生なのか分かるようになる。また、サービス利用、教育、生活、何の相談なのか具体的に分かるようになるので、その結果は次回お伝えできると思う。(事務局)
- ・ 知りたいことが分かるようなデータベースが必要だが、全てデータベース化する必要はない。必要性に沿ってデータベース化していくことが望ましい。(委員)

2. 各専門部会の活動報告

(1) 児童部会

- ・ 資料をもとに事務局から報告

(2) 就労部会

- ・ 資料をもとに事務局から報告

(3) 精神部会

- ・ 資料をもとに事務局から報告。

(4) 身体障害部会

- ・ 資料をもとに事務局から報告。

【質疑応答】

- ・ 精神保健福祉に関するハンドブックがとても参考になった。家族会、皆に配っている。このように良いハンドブックを作って頂いて感謝している。(委員)
- ・ 基本的な情報を集めたものが必要だと思った。より使い易いものにするため、工夫したいので、今後も意見をもらえたらと思う。(委員)

(5) 身体障害部会からの提案

- ・ 資料をもとに事務局から報告

一昨年来、身体障害部会で移動支援のことについて取り組んできた。特に通学に特化して言うと、深刻な相談が出てくることが多い。昨年4月に移動支援についてのアンケート調査を行った。障がい福祉課の協力を得ながらご指導を頂き行ったが、移動支援全般（余暇支援等）については「満足している」という回答が7割程度であった。しかし、通学支援に関しては、子供が通学しようにも保護者が通学支援できない方がいたり、移動支援を通学支援で使おうとしても施策上利用上限があり、使えないといったことがあった。事情によっては時間を延ばしてくれるケースもあることは了解されているが、通学支援に関しては、人的にも色々な面で困難があると聞いている。

身体障害部会の方で、通学に関して、アンケートの数字に出てこない生の声を聞きながらご父兄と一緒に通学に関する事を考えていこうとこのような会を行うこととした。

通学に関しては制度だけではカバーできず、ボランティアが担っている部分が多い。市社協のボランティア振興課と話し合いをしながら今回の取り組みを行おうということになり、中央地区、下鶴間地区の地区社協の方から「そのような課題があるのであれば、我々も協力する。」との声があると聞いた。まず、各地域で通学に関する課題を聞き、取り組んでいくこととした。

地域懇談会をどのような形でやればよいのか考えている。中学校や小学校の校長会を訪問し、会長にお会いし、特別支援級の親御さんにチラシを配って頂けるようお願いをした。校長先生からも好意的なご意見を頂いている。身体障害部会としては、実施スケジュールを決め、具体的に取り組んでいく必要があると考えており、定例会委員の方々にもご意見を頂きたく、このチラシを配布した。

【質疑応答】

- ・ 通学について考えて下さることは本当にありがたいことだと思う。小学校においては、登校班で対応している学校と自由登校制をとっているところがあるが、どちらにしてもとてもありがたいことだと思っている。自由登校制をとっている学校は比較的増えている。校外やPTAの話し合いにより、登校班での集団登校はなくなった。集団登校だと高学年の班長は低学年の班の子どもたちを学校に「連れて」行くことになり、その負担がある。高学年の生徒が班長と言う理由で安全性を守れるわけではなく、その負担を考慮している（委員）
- ・ 集団登校の良さもある。周囲の人達と繋がっていくよい機会であり、コミュニケーションの機会になるのではないだろうか。（委員）
- ・ 息子は集団登校だった。登校班での通学も良い経験だった。また、一度一人で帰れたのをみて一人で帰すようになった。登下校も色々と勉強になる。登校班にボランティアがついて行くのと、一人一人にボランティアがつくのでは、ボランティアの方の負担も変わってくるだろう。（委員）
- ・ 支援級在籍に関しては、保護者が学校まで連れていくことが前提になっている。逆に自立登校のようなものを目指しているところは「本人で来て下さい。」という場合もあり、学校によって異なる。中学校になると自力登校が出来る人が増えている。（委員）
- ・ 地域によっても変わってくるのではないか。個別の対応もかなり必要となってくるだろう。（委員）
- ・ 通学に関する地域懇談会の結果については次の次の定例会で報告する。準備状況等も報告していく予定。通学に関しては、障がいのある人たちだけではなく、地域全体の課題となる。このように地域懇談会を開きながら、地域の子供たちの通学に関して、もう一度考える契機になれば、と思っている。まず、身体障害部会では、親御さん達の意見を聞いていこうと考えている（事務局）

3. 自立支援協議会全体会について

- ・ 資料をもとに、委員より説明。
- ・ 開催日時は想定している会場の都合で、記載された日程の通りとなっている。場所は保健福祉センター1階ホールとなっている。
- ・ 今回は1回目ということもあり、各部会の紹介に力を入れた方がよいのではないかと、という話になり、このような流れになった。定例会、専門部会の各会での相談となる。

【質疑応答】

- ・ 「自立支援協議会ってなに？」となっているが、法改正で自立支援協議会が義務化される可能性もある。より知ってもらえるような形にできるといいと思う。期待値はあると思う。（委員）
- ・ 全体会として参加される方に障がい福祉に関わってくれる方が含まれると良い。地域支援として関わっていきたいと言う人も呼んだ方がよい。400人規模の会場では少ないのでは（委員）
- ・ 身体障害部会で地域との関わり等も増えてきているが、どれくらい人が来るかわからないので、逆に400人では多すぎるかな、と心配な部分もある。（委員）
関係者以外にも地域に関わる人が参加できる良いと思う。その人達を取り込むためにはテーマ的な物を考える必要がある。内輪の集まりにならないよう、色々な人が参加しやすいテーマ設定が必要だと思う。（委員）

- ・ 当事者団体の中では土曜日の午後は子どもを置いては出られないという方もいると思う。団体によっては平日の午前中に行き、13時には終わりという形がよい所もあるだろう。(委員)
- ・ 腎友会の総会は日曜日しかない。行事がぶつからないか心配なので、参加してもらえそうな団体の予定等も確認した上で日程を検討した方がよいだろう。(委員)
- ・ 民生委員の地区の定例会は7月8日(金)と聞いている。(委員)
- ・ 綾瀬市では何度か自立支援協議会の全体会のようなものが開催されており、見せて頂いたことがある。それぞれの向かう場所は同じと思われるが、切り口は違う印象を受けた。今回のタイトルは砕けた感じで分かりやすいけれど、もう少し、当事者視点の言葉があった方がよいと思った。しかし、それと同時に、知ってもらえることも大切だから、このような形でも良いかと思ったり。分科会形式から一堂に会する形式に変更されていて良かったと思った。(委員)
- ・ タイトル等、もう少し考えてみる。最終案が出来たら、メールもしくは郵送しますので、ご確認ください。(委員)

4. 「障がい者週間」における障がい福祉啓発事業についての報告

- ・ 資料をもとに、委員より説明。
- ・ 当日参加し、イオン大和のライトコートは良い雰囲気だと思った。12月4日に育成会のイベントもあり、良かったと思う。(委員)
- ・ 実際にやってみると楽しく出来た。継続して続けていきたいと思っている。(委員)
- ・ あゆみの家が参加しなかったのはなぜだろうか。せっかくのイベントなのに残念だなと思った。(委員)
- ・ 日程的に難しかったのかもしれない。今回はぎりぎりで行ったので、次回はもっと落ち着いて行えればと思っている。2月か3月にコンパスのイベントで文化祭を行っていたと思う。今後はそのようなイベントにもっと積極的に皆で参加してもらえればと思っている。(委員)

5. その他

【事務連絡等】

- ・ 障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律の公布及び一部の施行について通知が出された。(別紙参照)
- ・ 就労部会でチラシを作った。こんなことをやっていると分かると思われるので、知り合いの人等にも配ってほしい。ご協力ください。よろしくお願い致します。(委員)
- ・ 次回の定例会の日程については、議会の日程等も考慮し、決定ののち、ご連絡致します。

以上